

夫婦は偏見を共有するのか

○波多野文^{1,2}・榊美知子^{1,3}・小宮あすか⁴・村山航^{1,3,#}

(¹高知工科大学・²日本学術振興会・³レディング大学・⁴広島大学)

キーワード：偏見，社会的影響

Do husband and wife share stereotypes?

Aya HATANO^{1,2}, Michiko SAKAKI^{1,3}, Asuka KOMIYA⁴, and Kou MURAYAMA^{1,3,#}

(¹Kochi University of Psychology, ²Japan Society for the Promotion of Science, ³University of Reading, ⁴Hiroshima University)

Key Words: stereotype, social influence

目的

我々は、家族や友人などと相互にコミュニケーションを取って生活している。先行研究では、このような他者とのやりとりが偏見に影響を与える可能性が指摘されているが、親しい人間関係の中で、偏見や社会的信念が伝染するかはあまり検討されていない。本研究では夫婦という極めて親密度の高い関係において、偏見や社会的信念が類似するかを検討した。

方法

調査対象者 モニタ登録者を協力者とする調査サービスを用いた。日本に在住する夫婦 620 組に回答を依頼し、429 組から回答を得た。このうち、スクリーニング項目に正しく回答できたペア 306 組を分析の対象とした(平均年齢 58.15 歳, SD = 13.10)。

調査期間 2017 年 7 月 6 日～2017 年 7 月 14 日。

質問項目 個人属性に関する質問(生年月日, 最終学歴, 職業, 年収, 居住する地域, 配偶者との結婚期間, 同居の家族, 子どもの有無), ウェルビーイング, 夫婦関係, 日本人, 韓国人, ムスリムへの偏見尺度(Turner & Crisp, 2010), 平等主義的性役割態度スケール(鈴木, 1994), ナショナリズム尺度(Weiss, 2003), 政治的態度(三船・横田・中木, 2013), 共感性尺度として対人反応性指標より共感的関心と視点取得(日道ら, 2017), 社会的望ましき尺度(谷, 2008), スクリーニング質問で構成された。偏見尺度は, 人種ごとに 6 項目, 性役割態度スケールは 16 項目から抜粋された 8 項目, ナショナリズム尺度は 5 項目で構成されていた。政治的態度は, 先行研究の 8 項目に 1 項目を追加し, 共感的関心と視点取得はそれぞれ 2 項目ずつ使用した。社会的望ましき尺度は, 印象操作因子から 2 項目を抜粋して使用した。質問紙は調査会社より調査対象者に配布され, 個別に回答を得た。

結果

各尺度について尺度得点を算出した。夫婦間のステレオタイプ, 政治的信念の類似性を検討するために, ペアを要因とした一要因の分散分析を行い, ペア間の分散とペア内の分散から級内相関係数 (ICC) を算出した (表 1)。

表 1 より, いずれの尺度においても級内相関係数が高くなった。 F 検定の結果, 全ての尺度において, 1%水準で有意となった。すなわち, 夫婦同士で偏見や社会的信念が類似していることが明らかになった。

考察

本研究の結果, 夫婦という極めて親しい人間関係においては, 偏見や政治的信念, 性役割意識などの信念の類似性が高まることが明らかになった。ただし, 夫婦関係の継続によって一方のステレオタイプがもう一方に伝染したことで類似性が高められたのか, そもそもステレオタイプや信念が類似し

ている者同士が夫婦関係を結びやすいかは明らかではない。今後は縦断で測定を行い, 類似性が長期的に高まるかを検討する予定である。

表 1. 各指標のペア間・ペア内分散と級内相関係数

	MS _B	MS _W	ICC	F (306, 305)
日本人ステレオタイプ	1.05	0.33	0.52	3.18*
韓国人ステレオタイプ	1.55	0.36	0.63	4.36*
ムスリムステレオタイプ	0.63	0.29	0.37	2.17*
政治的態度	1.08	0.27	0.59	3.92*
性役割態度	0.54	0.27	0.34	2.02*
ナショナリズム	0.40	0.12	0.52	3.18*
共感性	0.69	0.32	0.37	2.17*
社会的望ましき	3.52	1.49	0.41	2.36*
ウェルビーイング	1.89	0.65	0.49	2.89*
夫婦関係	28.10	2.90	0.81	9.69*

* $p < .01$

MS_Bは各指標に対するペア間の分散, MS_Wはペア内の分散を表す。ICC は級内相関係数を表す。ICC = (MS_B-MS_W)/(MS_B+MS_W)

引用文献

- 日道俊之・小山内秀和・後藤崇志・藤田弥世・川村裕太・Davis, M. H・野村理朗 (2017). 日本語版対人反応性指標の作成 心理学研究, 88(1), 61-71.
- 鈴木淳子 (1994). 平等主義的性役割態度スケール短縮版 (SESRA-S) の作成 心理学研究, 65(1), 34-41.
- Turner, R. N., & Crisp, R. J. (2010). Imagining intergroup contact reduces implicit prejudice. *British Journal of Social Psychology*, 49(1), 129-142.
- Weiss, H. (2003). A Cross-National Comparison of Nationalism in Austria, the Czech and Slovak Republics, Hungary, and Poland. *Political Psychology*, 24(2), 377-401.
- 三船恒裕・横田晋大・中木真実 (2013). 日本における社会的優越指向性と政治的態度との関連. 日本心理学会第77回大会論文集 192.
- 谷伊織 (2008). バランス型社会的望ましき反応尺度日本語版 (Bidr-J) の作成と信頼性・妥当性の検討. パーソナリティ研究, 17(1), 18-28.